



六甲カトリック教会 教会報



神父への道のり

助任司祭 渡辺 徹郎 S. J.



「神父になるまでどのくらい時間がかかるのか？」という質問を受けることがありますので、今回は神父になるための道のりをお話したいと思います。

神父になるための養成期間はとても長いです。イエズス会の場合、基本的に10年以上かかります。なぜそんなににかかるかというと、神父になるためにはローマ教皇庁が認可した学術機関で哲学・神学の勉強をしなければならないからです。大学と同じで（そもそも大学制度自体が神父の養成にルーツがありますが）、単位を取得しながら勉強します。教会法には哲学・神学を合わせて5年以上勉強するという規定がありますが、イエズス会員は少なくとも7年間勉強することになります。哲学3年・神学4年です。イエズス会では哲学期は第一勉学期とも呼ばれ、プラスアルファでいろいろ勉強します。日本では哲学を学びながら中高で教えるための準備として教職免許を取得する場合があります。神学期では神学に焦点を当てながら、将来の奉仕に向けて必要となることも学びます。

イエズス会員のような修道者の神父の場合は上述の勉学に加えて、修道者としての養成も加わります。イエズス会の場合、哲学期の前に修練期と呼ばれる修道者としての基礎を学ぶ期間が2年あり、哲学期の後には中間期と呼ばれる実習期間が約2年あります。

ですので、勉学期（7年）、修道者としての養成期間（4年）を合わせると11年かかることになります。自分自身の歩みを振り返って思うのは、カトリック教会が一枚岩であり続けられる大きな要因の一つはこの養成期間の長さにあるということです。神父に対するこのしっかりした養成があるからこそ、カトリック教会は聖霊の導きのもとにキリストから使徒に伝わった教えを2000年もの間、一致のうちに保ち続けることができているのではないのでしょうか。

ちなみに、以前この教会で奉仕したニティンさん、フォンさんを含む4人の神学生が3月に六甲教会を訪問しましたが、それは神学期に実施される神父になるための準備学習の一環でした。

現在、日本のイエズス会には神学生が10名ほどいます。どうか彼らが豊かな恵みのうちに神父となるための準備ができますように、ともに祈りいただけたら幸いです。

・教皇4月の祈りの意向は「**新しいテクノロジーの使用**」です。次のように祈りましょう。

「教皇の意向：新しいテクノロジーが、人間関係の代わりになるのではなく、人としての尊厳を尊重し、また、時代の危機に立ち向かう助けとなりますように。」

2024年度 第6回小教区評議会(要約)

日 時：2025 年 3 月 9 日（日）11：30～12：20 第1、第2会議室

出席者：英 隆一朗（主任司祭）、堤 福生（議長）、荏原いずみ（副議長）、岩谷美禰子、中村節子（書記）、橘 道子（典礼部）、松平麻也（宣教部）、宗行孝之介（財務部）、井川直哉（地区会）、井川伸子（社会活動部）、大上尚子（広報部）、本下 稔（施設管理部）、蛭田 武（三日月会）、藤井敦子（婦人会）、吉村千里（教会学校） 西川 葉（教会事務室）。以上 16 名。

1. 英主任司祭の挨拶

- ・4月6日新旧主任司祭の交代。加藤信也神父は2日赴任、7日着任。英神父は8日に次の赴任先へ出発。
- ・議長団は、副議長は松井理直さんから中村治也さん、書記は中村節子さんから三木宏夫さんに交代。
- ・3月9日、5名が洗礼志願式。復活徹夜祭に渡辺神父が2名に、残り3名は英神父が個別に洗礼を受ける。
- ・身の丈に合った教会、意味のある改革を新しい神父のもとで継続して進めていってほしい。また「六甲教会の祈り」は、当教会の改革に沿ったものに改訂してほしい。

2. 報告事項

- (1) 神戸地区東ブロック（中央、六甲、住吉）で聖体奉仕者の養成講座を5回（2024年5/26～2025年1/26）と2回の補講を実施した。六甲教会からは7人受講、全員が4/20に「聖体授与の臨時の奉仕者」に任命される。
- (2) 2025年度小教区評議会の役員、評議員、教会行事予定表を発行する。
配布は各地区役員が3/15（土）、3/16（日）、3/22（土）、3/23（日）に行う。
- (3) 教会新年会（1/12〔日〕）：新成人祝福式と新受洗者の紹介があった。教会報2月号参照のこと。
- (4) 阪神淡路大震災30周年追悼ミサ（1/17〔金〕）：神戸中央教会で前田万葉大司教を迎えて行われた。教会報2月号参照のこと。
- (5) 宣教・養成部講演会（3/1〔土〕）に代えて、六甲教会ハラスメント対応委員会との合同で、ハラスメント研修会（3/16〔日〕）として行うことになった。
- (6) 祈りと音楽の集い（3/2〔日〕）：テーマは「オルガンで聴く祈りと歌」。
椎名雄一郎さん出演。153名参加。65,379円献金があった。
- (7) 灰の水曜日（3/5〔水〕）ミサが7時、10時、19時に行われた。
- (8) その他各部・各会からの報告
 - ・社会活動部：学習会を7/27〔日〕10時ミサ後に行う。古川龍樹さんによる講演。福岡事件の冤罪の問題、命の大切さについて。
 - ・施設管理部：司祭室2室の床のフローリング張替工事、および、司祭室2室・図書室・教会学校の4室の入り口ドアの透明ガラス化への改修工事(目的：ハラスメント防止)の完了を以て、今年度の事業はほぼ終了した。なお、今年度中に図書室の鍵を内側から施錠できないものに変える。
来年度の事業として聖堂屋根の塗装工事と軒樋の防水工事を予定している。梅雨時期までの工事完了を目指し、4月中旬の着工・5月下旬の竣工としたい。そのため3月中旬に契約したい。

3. 協議事項

- (1) 地区会再編について（別紙1配布済）
地区会再編プロジェクトチーム要員について、地区役員の推薦をもとに役員会で信徒6名の推薦者を決定し、評議会に提案。審議の結果、了承された。この6名にチームへの参加を依頼する。
- (2) 平和旬間について（別紙2配布済）
2025年度は7月と8月を「平和月間」となることから、六甲教会としては、7/27社会活動部の学習

会（古川龍樹さんの講演）と8/9「平和旬間の講演と祈りの集い」（西谷文和さんの講演）の2講演を、大阪高松教区の意図する小教区の平和月間行事とし、教区報に載せたらどうかという提案がなされた。

- (3) 80周年事業について（別紙「周年事業プロジェクトチーム（第4回）記録」配布済）英神父の異動のため、加藤信也神父の意向を踏まえてから進行を再度見直すこともあり得る。震災後の歩み、新聖堂の建築以降が中心となる。原稿の協力をお願いします。

4. 今後の行事予定

- (1) 教会学校卒業式・終業式・卒業合宿：3/8（土）～3/9（日）
- (2) 洗礼志願式：3/9（日）
- (3) 教会学校春の練成会：3/15（土）～3/16（日）
- (4) ハラスメント研修会：3/16（日）
- (5) 三日月会日帰りバスツアー：3/19（水）
- (6) 新旧主任司祭の歓送迎会：4/6（日）
- (7) 教会学校2年生1日錬成会：4/13（日）
- (8) 受難の主日（枝の主日）：4/13（日）
- (9) 聖木曜日（主の晩餐）：4/17（木）
- (10) 聖金曜日（主の受難）：4/18（金）
- (11) 聖土曜日・復活徹夜祭：4/19（土）
- (12) 復活の主日、ご復活お祝い会：4/20（日）
- (13) 成井大介・カリタスジャパン担当司教の黙想会：4/6（日）9:30～12:00 神戸中央教会主聖堂及び集会室。カリタスジャパンの活動の紹介も含む。ポスターを掲示する。

5. その他

- ・枝の主日用の枝の準備について、去年は330本作ったが20本ほど不足した。
今年は何本用意するか、典礼部から施設管理部に知らせてほしい。
- ・2月末に紙折り機が故障したが、施設管理部による分解整備により使用可能となった。
- ・聖週間の木曜日、金曜日、土曜日のミサは19時から。洗足式のベンチを運ぶ手伝いをお願いしたい。
- ・洗足式参加者として、去年の新受洗者、一般信徒、子どもなどに声をかける。協力をお願いしたい。
- ・評議員の名簿をメールで送るので確認してほしい。また掲載を希望しない場合は削除してほしい。

次回開催日

◇4月27日（日）14:00 小教区評議会研修会（新旧評議員による2025年度教会活動方針の検討）

◇5月11日（日）11:30 第1回小教区評議会

以上

社会活動部 今月の予定

- 4月2日（水）10時 手芸の集い 第1、第2会議室
- 4月12日（土）10時半 炊き出し 小野浜グラウンド（中央区小野浜町3）
 - ・一緒に車で行かれる方は 六甲教会に10時集合です。
 - 教会事務に事前にご連絡下さい。
- 4月21日（月）9時半 ともしび会 教会台所
 - ・児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り。

園芸だより（四旬節に寄せて）

信徒会館入り口の右手の植え込みに、白と赤紫色のレンテンローズ（キンポウゲ科）が開花しています。20年前、園芸係をなさっていた先輩の方々が苗を植えられました。こぼれ種から新芽を出し、株は大きく成長し六甲教会のシンボルフラワーになっています。若い園芸スタッフの四季を通じた手入れが行き届き、今年は沢山の花をつけています。一般的にはクリスマスローズと呼ばれていますが、この種類は四旬節（レント）の頃に咲くので近年レンテンローズと呼ばれ区別されるようになりました。ちなみにクリスマスローズは12月頃から1月末にかけて花を咲かせ、花の下部に花茎を包む小さな葉の縁に鋸歯（ギザギザ）が無いのが特徴です。



・・・・・・・・・・・・・・・・

六甲教会では、信徒は前年の「枝の主日」に神父様から祝別をいただいた枝を翌年の「灰の水曜日」前に教会に持ち寄り、事務所のスタッフが信徒会館の東側にある煙突の下で燃やし、「灰の水曜日」に使う灰を作ります。この日から復活祭まで四旬節中の毎金曜日に10時から十字架の道行きを続けます。



毎年、「枝の主日」の4日前（水）に施設管理部では、教会内3カ所に植えているソテツ（裸子植物）の葉を切り落とし、枝を作ります。枝の本数が足りない時は、六甲学院の協力を得てソテツの葉をいただきに行きます。そして最終の「十字架の道行き」を済ませた信徒が集まり、ソテツの葉をナイフで落として持ち手を作り、綺麗に枝作りの作業をします。

「枝の主日」の前日に聖堂の祭壇下にソテツの葉を担当者が生けこみます。

当日、信徒は各自ソテツの葉を持って前庭に集まり、神父様から聖水を頂き祝別していただきます。小さなソテツの葉をつけた十字架を掲げた奉仕者につづき司祭・信徒が栄光の道へとキリストを讃えながら入堂する感動の日です。



・・・・・・・・・・・・・・・・

施設管理部のメンバーは、この期間ソテツの剪定・灰作り・復活徹夜祭の火起こしまでの作業をしています。毎年、村上ケサヨさんは綺麗な灰作り、復活の蝋燭から火を頂く蝋燭の持ち手をアルミホイルで作って下さっていました。天国に召されたメンバーの方々は長年にわたり心を込めて地道な作業に従事して下さい大切な教会行事を支えてくださっていました。この季節、皆様も先輩方のお姿を懐かしく思い出される事でしょう。

・・・・・・・・・・・・・・・・

英神父様の着任後の意向により避難用の芝生面、憩いの場の藤棚のリニューアル工事に園芸スタッフは勢いつき協力し合って酷暑の中での芝刈り、厳冬の中で花壇の手入れをしてきました。「きれいだね！イングリッシュガーデンだね」。お言葉を励みに、異動されても神父様がいつかまた六甲に訪問して下さいのを楽しみにお待ちしております。

（施設管理部 貴島せい子）

「祈りと音楽の集い」～オルガンで聴く祈りと歌～ 3月2日



今年度最後の「祈りと音楽の集い」は、仙台から来ていただいた椎名雄一郎さんの演奏でした。コンサートオルガニストとしてだけではなく、プロテスタント教会の礼拝でもオルガンを弾かれ、また、東北学院大学では宗教主任として、教鞭をとっておられます。

「オルガンで聴く祈りと歌」というテーマのもと、バッハのコラール前奏曲で綴られていくキリストの受難の道、そして、最後はそのバッハに傾倒していたメンデルスゾーンの子ナタの、華麗な響きの音楽で締めくくられました。灰の水曜日の直前の日曜日、四旬節を迎えるための準備の時間となるプログラムでした。

お話の中でもふれておりましたが、六甲教会のオルガンは椎名さんの大学時代の大先輩に当たる辻 宏さんが若い頃に作られた楽器です。そのことにも思いを馳せながら演奏して下さったと思います。

信仰と音楽が結びついた素晴らしいひとときでした。

(オルガン奉仕者 三浦 優子)

オルガン見学

3月9日フェリス女学院大学(神奈川県)より、オルガンを学んでおられる学生グループが同校で教鞭をとるオルガニスト三浦はつみさんの引率の元、六甲教会のオルガンを見学に来られました。フェリス女学院大学は明治初期に横浜に創立されたプロテスタント系の学校です。学校はカトリック山手教会(横浜教区カテドラル)の近く、港を眺める高台にあります。今回学生たちは神戸国際大学(日本聖公会)のチャペルコンサート出演のための来神でした。神戸聖ミカエル教会(日本聖公会神戸教区主教座聖堂)でのミサでの音楽奉仕の後、日本キリスト改革派神港教会、そして当教会を訪問されました。



オルガンはそれぞれがオリジナルで、世界に一つしかない一期一会の楽器です。そのため、旅先での聖堂やオルガン訪問は私たちオルガンに携わっているものにとっては、とてもいい勉強になります。当教会のオルガンは1970年に建造され、2010年に日本基督教団東梅田教会から移設されてきました。とてもコンパクトに考えられた設計に、同行されたオルガンビルダー(オルガン製作者)の方も興味深く観察されていました。

見学者の中にカトリック田園調布教会のオルガニストがおられ、その方の伴奏で典礼聖歌を数曲歌い、聖堂での響きを味わいました。オルガンは、日頃は典礼を支える楽器ですが、今回のように、オルガンを通じて教派を超えたつながりができることをうれしく感じた時間でした。

(オルガン奉仕者 清水真理子)

●●●みんなの広場●●● カウントダウンが始まった？

中高一貫のカトリック・ミッションスクールに通わされていた中学2年の時、シスターから、「いつでも（死への）準備をしておきなさい」と言われ、それまでほぼ毎日書いていた日記を全部焼いてしまったことがあります。思春期には、それがどんなにつまらないことでも人に知られたくない事ってありますよね。後年、日記を再開しましたが、死への準備意識はずっと残っていて、後悔しない生き方を意識しています。

「備えよ常に」。準備って本当に大切だと思いますが、災害時のための用意ですら、まだまだ大丈夫だろう、となおざりになっています。

ところでつい最近、内科で受診した際にエコーを取ってもらおうと、腹水がたまっているとのこと。

「えっ、何で？」。血液検査・腫瘍マーカーもマメにしている、ひっかかったことは一度もありません。免疫力も自分では高いほうだと思っていました。

早速、大きな病院で検査してもらった結果、がん性腹膜炎。脾臓と胃の隙間に腺がんが発生、種まきのようにがん細胞が腹膜腔内にばらまかれているとのこと。

網膜色素変性症・腰部脊柱管狭窄症・椎間板ヘルニア・口腔内骨折による咀嚼異常・白内障等々、ヨブ記のヨブのように次から次へと襲ってくる異変に、都度前向きに捉え、向き合ってきましたが、日々痩せてくる実感と、最先端治療は不向き、ステージ4、死ぬまで抗がん剤治療という説明に、「いよいよ店じまいの準備がはじまったか、整理しておこう」と、思いました。やり残しや今後のために用意していることは数々あれど、森永卓郎さんのような立派な業績をおさめるべくもなく、自分にできることはここまですでに。

家族、友人たちや関係者に触れ回り、今の間にすべきことをしておこうという思いでした。

けれども、末期がんを克服して現在も元気に活躍している人もいます。自分もその中に入ろう、整理は良いが、まだまだ終わらせてはなるまい、と強く思うようになりました。

突然の末期がん宣告に自分も周囲も驚きました。次は突然のがん緩解宣言をすることにしました。

皆様、お騒がせしてごめんなさい。感謝の気持ちで終えるつもりでしたが、まだしぶとく生きますね。お別れは日延べするので、お待ちくださいね。

(マルガリタ・マリア 岩田 聖代)

ハラスメント研修会 講師は英主任司祭

3月16日10時ミサ後、ハラスメント研修会がイグナチオホールで行われました。参加者は54名。教会報3月号巻頭言で英隆一郎主任司祭が取り上げられている通り、この問題は私たち教会のコミュニティにとっても無視できない問題となりつつあります。

冒頭で英神父様は、ハラスメントは暴力である！と喝破され、ついでその暴力は、加害者・被害者双方に意識的なもの、そして無意識的なものもあり、やっかいなのは“無意識的な思い込み、偏見”で、加害者にとっては「今までは許容されていたはずだ」、一方被害者に「自分はハラスメントを受けても仕方のない人間だ」というような思いに発するものがあるとされました。さらに、被害者が勇気を振り絞って相談したにも関わらず、周囲の人たちの誤った認識により“被害者側にも落ち度があった”とするなど、二次被害を招くことも多々あり、これは、関わる私たち自身が間接的に加害者になりうる可能性があることを指摘されました。

当教会でも様々な事案が現実には発生しており、この問題は私たち一人一人がもはや無関係ではないということを実例あげて説明されました。

さらに、国内のみならず、世界中でカトリック教会内部におけるハラスメント問題が表面化していることが報道されています。これらについて司祭自ら率直に信者の前でこの状況を開示し、取り組んでゆく姿勢を明らかにされたことに驚きと感動を禁じえませんでした。

私たちハラスメント対応委員会は2024年12月から活動を開始しました。が、委員会の活動もさることながら、ハラスメントの芽を摘むためには、互いの意識を日々ブラッシュアップすること、互いのコミュニケーションを深めつつ信頼関係を醸成してゆくことが求められます。

研修会は今後毎年1回開催することになっています。次年度は1月26日に予定されています。

お含みおき下さい。

(ハラスメント対応委員長 宗行孝之介)

3月19日、三日月会遠足

～ロボアム神父様の案内で世界遺産・高野山、真言密教の世界へ～



ロボアム神父様
(法名 沙門眞光)

ぐっと冷え込んだ3月19日(水曜日)の朝、三日月会遠足一行41人は、イエズス会司祭のロボアム神父様(写真左)、英神父様と共に、世界遺産・高野山に向かいました。標高は六甲山よりわずかに低い高野山ですが、山への国道480号線をたどるうちに周囲の景色は一変、銀白の世界に。杉やヒノキ、モミ、高野槇など、あらゆる木々の枝はそのかたちのままに雪が積もり、自然の造形美をまず堪能しました(写真右)。

高野山は空海(弘法大師)が9世紀初めに開いた日本仏教の一大聖地。雪の積もる参道の階段をのぼり、金剛峯寺の主殿、別殿を見学しました。襖絵は現代作家のものでしたが、豊臣秀次自刃の間も公開されていました。世界遺産を構成する、ここ金剛峯寺にもインバウンドの客が普段は多いとのことでしたが、この日は雪の重みで枝が折れた影響で、ケーブルカーが一時運行中止になったせいで、雪の参道を歩く人の影はまばらでした。

降り積もる雪に靴跡が深く残るところもありましたが、皆さんの足元はほぼ万全の備え。慎重に歩いたおかげで転倒する人はいませんでした。

昼食は、宿坊寺院のひとつで、ロボアム神父様が30年前からお務めになる、江戸時代建立の親王院にて、精進料理をいただきました。ごま豆腐、ぜんまいや里芋の炊き合わせ、茄子や厚揚げの揚げ浸し、大豆ご飯など、それはそれは美味しく、見ると皆さんのお膳はほぼ完食。

食後は2つのグループに分かれて、ロボアム神父様のご案内により、一般観光客には非公開の親王院護摩堂と本堂を特別に拝観させていただきました。明かりは蠟燭だけの本堂の暗さに目が慣れると、中央に安置された不動明王が浮かび上がります。そこで真言密教の世界観を教えてくださいました。外気温とさほど変わらぬお堂内では、吐く息が白く見えました。そのあとに訪れた霊宝館には、意外にかわいらしいお顔の弘法大師像が展示されていました。また、平清盛が、自らの額を割って流した血で描かせたという血曼荼羅(模写)が壁面いっぱいに展示されていました。

高野山は、僧侶が2,000人、そしてそれを支える人々の信仰の山。宗教が異なり、信仰のあり方も全く違いますが、キリスト教も真言密教も、よりよい世の中を願い、人々がよく生きていこうとする思いに変わりはないことに思いを深くする旅となりました。

主の祈りに始まり、マリア様の祈りで無事に終えることのできた遠足は、ほぼ定刻に六甲教会に帰着、解散となりました。なお、雪が降りしきる高野山での集合写真は撮れませんでした。

思い出の1枚は、皆さんの胸のうちに…。

(広報部 大上 尚子)



4神学生が六甲教会訪問 (巻頭言参照)

4人の神学生の皆さんが、司祭になるための叙階準備学習の一環で、九州から神戸まで、福岡、長崎、下関、長府、山口、津和野など8つの教会巡礼の旅をして、3月15～17日に最終地の六甲教会を訪問しました。

ニティンさんとフォンさんはそれぞれ、2022年と2023年に、六甲教会でイエズス会の神学生プログラムの中間期を過ごしました。六甲教会は初めてのユオンさんラクラさんを含め、神学生は4人とも30代でした。

よき牧者となるため、教会巡礼をしながら司祭職のイメージをしっかりと持てるように、現場の司祭、信徒の皆さんから話を聴きました。

(写真は左からフォンさん、渡辺神父、英神父、ユオンさん、ラクラさんとニティンさん。)

図書紹介

「病の神学」ジョン クロード・ラルシュ著 二階宗人訳 教友社

本の帯解説によれば、本書は“病気とその痛みの治癒、そして人間の霊的な全面的な救いをキリスト教の視点から展望する”ものです。



私（早坂）は 18 才の時哲学を志向し、挫折し、言語病理学の道に入り、40 代、学者としての苦しみの中、神学を志向し、それも成らず、50 代半ばまで言語病理学者としてことばを専門に歩んで参りました。病を得て、私は言葉を通して病を学ぶ道、みことば～聖書～を通して病を学ぶ道をやっと志向し始めた頃、英神父さまと出逢いました。

それは神学者、聖書学者として学の道から教える以上に、日々司牧の前線に立ちながら自ら痛み、苦しみの道を歩まれながら、道、真理、命、そして希望である人間の病の霊的意味を深めて下さる関わりでありました。

本書には、キリストの技は人間の自由が尊重されなければ成就しない、とありました。今の私に強く響く言葉でした。それは何故か？ 本書を深く読み込まなければキリストの技の本質を捉えることは難しいのですが。

完徳者*は、医術に頼らずに、最良の身体と魂の医者であるキリストに頼ることで済みますが、それは自分を聖人と思ったり高慢の誘惑に陥らず、あくまで謙虚であるからで、囚われのない自由な心の人は世俗的な医術にもまた頼ることが出来る、とも言い得るのだ、と書かれています。凡庸な私たちが世俗的な医術に頼るのは神の望まれる謙虚さでもあること、キリストに頼ることでもあるからと言うことです。

あれか、これかの二律背反に陥りがちな私たちに、キリストは柔らかい素直な心を教えて下さっておられるのだなあ、と思いました。本書のごくごく一部をご紹介致しましたが、病の意味が生そのものの意味を問い直し、私たちを完徳の道に誘って下さる霊的な試練であることを受け止め、これからはキリストの道を歩んでゆきたいと願っています。（図書係 早坂 菊子）

〔註〕*完徳者：完徳とはカトリック教会用語で「完全」のこと。キリストの愛と自己犠牲に倣い、諸徳を実践する信徒生活の究極目標とする者。修道者がその例。

・聖書では神の「業」となっていますが、ここでは翻訳書の通り、「技」を用いました。

神戸地区社会活動委員会主催 静修会 3月20日

テーマ『優生思想をのり越えるには～障がい者との関わりの中で～』

3月20日（木）、カトリック神戸中央教会で静修会が行われました。講話・指導は、英 隆一郎神父（六甲カトリック教会主任司祭）。

英神父は、障害者差別解消法が施行されたその年（2016年）の9月に神奈川県障害者施設「津久井やまゆり園」で、元職員の植松 聖・死刑囚が入居者19名を襲い、死に至らしめた事件を紹介、日本には優生思想が根強くあり、事件後、ほとんどの障害者の名前を公表しない方針が取られたことにそれが現れているとされました。また、ハンセン病患者等を対象とした旧優生保護法（1968～1997）にも触れられました。

講話のあとは、自分が優生思想にとらわれるのはどんなときかを各自黙想するよう指導されました。さらにその後、数人ずつのグループで分かち合いがもたれました。

聖書では、マタイ18章1節、25章35節をひもとき、小さくされた人たちを大切にするイエス様の姿勢は優生思想とは真逆であることを紹介されました。

私の好きな聖書のことば

「恐れるな、私はあなたと共にいる」

(旧約聖書イザヤ 41 章 10 節)



アンナ 小坂田さち子

「“私の好きな聖書のことば”について書いて」、と言われた時、思わずお断りしました。特にすぐ思いつく言葉がなかったからです。しかし、“私の人生に深くかかわった言葉”ならすぐ思いつきます。「恐れるな、私はあなたと共にいる」です。

六甲教会に転入して以来 30 数年の間に、何十回、表現は違っても同じこのみ言葉に接し、生きる力をいただいたことでしょう。私は若い頃、すぐに怯え、逃げ惑う子でした。それが、このみ言葉に支えられて 30 数年を経た今、デンと腰が据わり、動じない大人になっております。神の言葉は褒めたたえられますように！

お元気で！ シスター・タオが異動、次の赴任地は母国ベトナム



ザビエルハウスのシスター・タオが 3 月 31 日付で異動となりました。新しい赴任先はシスターの母国であるベトナム。4 月 11 日に日本を後にします。ザビエルハウスは六甲教会の北西 70 メートルに位置するイエズス会修道院の敷地内にあります。ハウスはかつて神父様達のお住まいでもありました。シスター・タオは、箕面にある大阪聖ヨゼフ宣教修道女会から週 3 回通って施設の管理もして下さっていました。そんなシスターとのお別れを前にインタビューをしました。

Q シスターの来日はいつですか。また、ザビエルハウスにはいつ頃から通われていましたか。「表札」には、「在日ベトナム人友の会」とありますが、その活動は。

タオ：来日は 2011 年、東日本大震災の 1 カ月後でした。ザビエルハウスには 2023 年からですから、2 年間通ったことになります。イエズス会がザビエルハウスの有効運用を考える中、急増する来日ベトナム人が、異なる言語・文化・習慣などのために、いろいろな問題を抱えていることを心配した高山 親神父（当時は六甲教会助任司祭）が、「在日ベトナム人友の会」を 2020 年に作られ、私はその会のお世話を引き継ぎました。友の会は、“生活相談”、“法律相談”、“在日ベトナム人の連帯と助け合い”などの活動を目的としています。また、個別の悩み相談にも寄り添ってきました。

Q 六甲教会との関わりは、どういうものでしたか。

タオ：教会学校の皆さんと関わるが多かったですね。お正月には教会での餅つきに参加させてもらいました。また、錬成会の子どもたち 20 数人のためのお泊りの場所を提供したこともありました。教会でイースターエッグを一緒に作ったこともあります。ミドルの会や青年会の皆さん、そして社会活動部の皆さんとは炊き出しで一緒に、いろいろお話ができました。また、折々のごミサにも与りました。

みなさんと楽しい時間を過ごせてよかったのですが、何しろ箕面にある修道院から約 2 時間かけて通って来ているため、どうしても時間の制約がありました。私たち修道女もまた、その行動には報告・連絡・相談が求められるからです。もっと皆さんと接する機会がなかったことを残念に思います。

Q 六甲教会共同体との交わりで楽しかったこと、残念だったこと、共同体のこれからについてアドバイスなどは。

タオ：六甲教会はイグナツィオ・デ・ロヨラの霊性を熱心に生きようとする信徒さんの集まりで、共同体の各活動が盛んであることをうれしく思いました。また私だけでなく、司祭・修道者を理解して大事にしてくださり、支えてくださるのもうれしいことでした。一方で残念なことは、若い未信者の方たちの考え方です。教会で熱心に奉仕活動をしてくださるのですが、信者になったら、日曜のごミサなどの「義務」に縛られると思って躊躇しているようです。しかし、「義務」というより、「ごミサに行かないともったいない」「分かち合いがある」「慈しみの神さまに見守られ、支えてもらえる」のだということがわかるように教えてあげてほしいと思います。（終）

【2025 年 4 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
					初金ミサ 7:00 10:30 十字架の道行 10:00 ◎灘南・神戸西	◎土曜班
6	7	8	9	10	11	12
四旬節第 5 主日 手話付きミサ 10:00 新旧主任司祭歓送迎会 10 時ミサ後					十字架の道行 10:00 ◎灘西・中央	教会学校入学 式・始業式 社会活動部 炊き出し
13	14	15	16	17	18	19
受難の主日（枝の主日） 地区役員会 11:30 教会学校 2 年生 1 日錬成会				聖木曜日 主の晩餐の 夕べのミサ 19:00	聖金曜日 主の受難 （大斎・小斎） 10:00 聖地のための 献金 ◎大阪シナピス	聖土曜日 復活徹夜祭 教会学校休み
20	21	22	23	24	25	26
復活の主日 ご復活お祝い会 10 時ミサ後					◎東灘北1	典礼部会 10:00
27	28	29	30			
復活節第 2 主日 子どもとともに捧げるミサ 初聖体式・祝福式 10 時ミサ後 施設管理部会 11:30 小教区評議会研修会 14:00		昭和の日 教会事務室 休み （～5/1）				

◎印は掃除当番地区（午前 7 時時点で気象警報が発表された場合は中止）

【編集後記】

- ◇年年歳歳花相似 歳歳年年人不同（唐詩選より）＝年毎に花は同じように咲くが、人は移り変わってゆく＝。英神父が去られ加藤神父がいらっしゃいます。季節の移り変わりは止めようがありませんが、人は躍動の季節になります。満開の桜を賞でながら、「ねじ」をまた巻き直しましょう。
- ◇ハラスメント研修会に参加しました。「知らぬことの怖さ」を思い知らされました。（余）

次回 5 月号の発行は 4 月 26（土）です。 原稿は毎月 15 日ごろまでに、教会受付へご持参 いただくか、FAX、メールをお願いします。 (renraku@rokko-catholic.jp) 皆さまからのご寄稿をお待ちしています。 ・教会 SNS チームは、フェイスブック、インス タグラム、X（旧ツイッター）、YouTube チャン ネルで配信しています。「六甲カトリック教会」で 検索してみてください。 毎月の教会報はホームページではカラーでご覧 になれます。	六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp 発行責任者 英 隆一朗 編 集 広 報 部
--	---